

長野県 公運協だより

第 155 号

発行所
長野県公民館運営協議会
長野市若里1-1-4
県立長野図書館内
電話 (026) 217-6256
FAX (026) 217-7015

ウェルビーイングの実現？と公民館



先ごろ公表された長野県の第4次教育振興基本計画

長野県公民館運営協議会

会長 櫻井貞文

基本計画や国の教育振興基本計画の中に「ウェルビーイングの実現」という言葉が登場しました。

変化が激しく、予測が困難な時代、少子化が進み、子どもや若者の人口が減少する一方で、高齢者が増加していく社会におけるこれからの教育目標のコンセプトとされること、社会教育や公民館活動におけるキーワードになるものと思われま

「ウェルビーイング」とは、「身体的・精神的・社会的に良い

状態にあることをいい、短期的な幸福のみならず、生きがいや人生の意義など将来にわたる持続的な幸福を含み、また、個人のみならず、個人を取り巻く場や地域、社会が持続的に良い状態であることを含む包括的な概念」ということ

「ウェルビーイング」とは、「身体的・精神的・社会的に良い」とは、協調的要素が重要とされています。

このことはまさに、公民館建設の理念やこれまで公民館が一貫して取り組んできたことと一致するものであり、これからも原点を見失うことなく、時代の変化やニーズに合わせた、学びを通しての人づくり・つながりづくり・地域づくりの取組みを続けていくことが、ウェルビーイングの実現につながるものと思います。

今年、「関東甲信越静公民館研究大会」が十一年ぶりに長野県で開催されます。本県での開催は六回目、また、令和元年度以来四年ぶりの対面による開催となります。人びとがつながり、支え合い、誰もが安心して豊かに暮らしていける持続可能な地域づくりを目指し、「人をつなぎ、時をこえて、未来を創る」とした大会テーマはまさに時宜にかなったものであり、活発な意見交換を通じてこれからの公民館活動のさらなる進展につながることを期待しています。

大会に参加される皆様、準備を進めていただいている実行委員会や運営へのご協力をいただく皆様には、さすが長野県と思っただけのような大会になるよう協力をお願いします。

令和五年度長野県公民館館長総会並びに研修会

佐久市中央公民館 館長 柳澤礼子

令和五年五月十日（水）に「佐久市コスモホール」並びに「あいとぴあ白田」（分科会）にて標記総会・研修会が開催されました。

開催日二日前の五月八日に新型コロナウイルスが二類から五類に変更となったこともあり、七十四市町村から百七十六名が集うことができませんでした。しかしながら三年間にわたるコロナ禍の影響は大きく、活動の再開がままならない自治公民館も多い状況から、本会の趣旨を「これまで公民館活動を振り返りながら、アフターコロナにおける公民館活動のあり方を見据え、前に進めていくための方策を考え合う機会とする」と定めての



開催でした。

基調講演では、元小諸市公民館長で元長野県公民館運営協議会長の松本文一さんから「極楽とんぼ館長の八年間くなんとかなるさなにかかするさく」と題してご講演をいただきました。小諸市公民館の課題を「幅広い年齢層の参加」と「地域に密着すること（支館・分館への支援）」の二点に絞り、課題克服に向かって様々なアイデアをもつて活動してこられた様子を写真等の資料を示しながらユーモアを交えてお話しくださいました。中でも、「『できる計画』ではなく『こんなものがあれば』の発想を大切にする」「館長の思いつきを職員が具現してくれる」の言葉から、小諸市公民館の機動力とチームワークのよさを感じ、その陰には職員を束ねる館長のおおらかな人柄と熱い思いがあったことが強く感じられました。

午後は、午前の基調講演と問題提起（アフターコロナの公民館活動）を受け、十六の分散会に分かれて協議・情報交換が行われました。

アフターコロナ初の開催公民館として佐久市が運営に当たらせて

いただきました。県全体に視野を広げて様々な取り組みや館長の姿に触れることができ次につながる有意義な学びの一日となりました。

ブロックニュース

中信

久しぶりの上高地

塩尻市大門公民館

主事 中田建司

大門公民館では、例年五月中旬に体力づくりと自然観察会を兼ねて、上高地のバスターミナルから徳沢までの往復約十二kmのトレッキングを開催してきました。しかし令和二年からの三年間、コロナ禍により中止を余儀なくされてきました。

今年四年ぶりに開催決定。参加者も決まりあとは当日を待つだけですが、当日の天気予報は「雨」。本来は雨天



の場合、中止する予定でしたが、開催前日に館長とガイドをしていただく上高地ネイチャーガイドの方と話し合いを持ち、予定通り開催を決定。参加者に改めて参加の有無を確認した結果、四十名中十三名が参加しました。

当日は予想通り雨天となり、歩く区間を当初の徳沢から明神周辺に短縮して開催。その分、ガイド

リレーム コラム

「長野県らしい公民館とは？」 ⑧

地域の絆を育む 社会教育の架け橋

原村中央公民館

前館長 五味武彦

原村では、地域の発展と住民の生活向上を促進するために、積極的に社会教育を推進しています。しかし、近年の感染症の影響により、社会教育の実践には新たな挑戦が求められています。

感染防止のため、公民館での活動が制限される中、多くの住民が外出自粛を余儀なくされました。この状況により、学びの機会が減少し、地域との絆が薄れる懸念が

の方から上高地の動植物や自然について説明を受け、ニリンソウの群生地を見たりしながらトレッキングを楽しみました。

雨天で生憎のトレッキングでしたが、見方を変えれば雨天でなければ見られない風景や自然を見ることができた一日でした。

来年度は雨天でも開催する方向で検討しようと考えています。

生まれました。地域社会は、私たちの生活を支える大切な存在です。しかし、現代社会では個人主義が進み、地域の絆が希薄になっていると感じることがあります。そこで、私たちが大切にすべきものは何か考えると、社会教育が浮かび上がります。

私たちが暮らす原村では、社会教育の基本方針として、地域の学習要求と教育的要請を把握し、地域住民の積極的な学習意欲を喚起する取り組みを行っています。例えば、地域の公民館では講座や活動を通じて、多様な学びの機会を提供しています。さらに、オンライン配信などを活用して、家庭でも学べる環境に挑戦しています。また、地域の社会教育団体の支

援や育成も重要な取り組みです。地域の団体活動や学習グループの活性化を図るために、学習資料や情報の提供を行い、自主的な活動を促しています。さらに、施設の整備やデジタル機器の活用により、社会教育施設の利便性を向上させ、住民の利用しやすさを追求しています。

令和五年度の事業計画では、地域のさまざまな世代に対応した学習機会の充実が重点目標となっています。青少年の体験型学習や高齢者の生きがいへの配慮、成人の多様な学習要求への応えなど、地域のニーズに合わせたプログラムを展開しています。また、男女共同参画や人権意識の向上も重要視されており、講演会や映画会を通じて学びの機会を提供しています。社会教育は単なる学びの場ではありません。それは地域との絆を深め、共に成長していくための手段なのです。私たちが地域の一員として、社会教育に参加し、学びの成果を地域に還元することで、自立した学習活動が展開できる環境を作り上げることができそうです。私たちは、地域の課題や問題解決に取り組むことで、互いに支え

合い、共に成長することができません。社会教育を通じて、地域の絆を深め、豊かな社会を築くための一歩を踏み出しましょう。私たち一人ひとりの力が、地域の未来を明るく照らす光となるのです。

※このコラムは、新たな取り組みとして、チャットGPTの力を借りて執筆しています。

ここに生きる

『貴重な実体験を持つ地域の先輩方に学ぶ 児童達』(令和三年度)

長和町公民館
館長 龍野賢一

令和三年度に地元和田小学校の六年生の担任の先生から「社会科の歴史学習で戦争に関する学習が一通り終わったが、児童達はどうしても他人事で終わってしまう感じが、教科書や資料集からでは学べない生の戦争体験者の声を聴くなどが出来ないだろうか？それも身近なこの地域の方のお話が聴ければ嬉しいのですが。」という依頼が届きました。「戦争体験者」というと、昭和二十年前後を

知る、今お元気にされていれば九十歳前後の方にお願いしなければなりません。



の生活からは全く想像できない悲惨な戦争時の実体験のお話をメモをとりながら真剣に聞き入っていました。最後に、手書きの資料も用意されていた坂田さんが「こんな悲惨な経験は二度とてはいけない！」と強い口調で話されたことも印象的でした。

身近な公民館に…

長野市立戸隠公民館
係長 原山幸子

そこで、役場内や社会福祉協議会の皆さんに該当されるような方がいらっしやらないか相談をしてみました。中濃さん、長井義和さん、坂田貞雄さん、田中濃さん、長井義和さんの方に依頼することが出来ました。三名ともに昭和の初めにお生まれになり、当日は九十〜九十二歳の年齢の方で、坂田さんは育ち盛りの年代に食料統制や物品の配給統制の中、大根飯やじゃがいも飯、カボチャ飯などを食べていた苦しい生活を、田中さんは若くして故郷を離れて実際に鹿児島で軍隊に入られた経験があり、その軍隊での辛かった思い出を、長井さんは、「満蒙(まんもう)開拓団」の一員として満州に渡り、今では想像もできない壮絶な体験をそれぞれ語っていたくれました。三名の方のお話を児童たちは、今の自分達

戸隠公民館は、戸隠支所や保育園、小中学校がある中心地から六キロメートル以上離れた山間の静かな場所にあります。地区内人口の約半分が六十五歳以上、当館周辺地区の住民は地区全体の三割弱で、当館まで徒歩で来られる住民はほとんどいません。当館利用者は七十歳以上が多く、大半の住民にとって当館は「遠い場所」「行きにくい場所」というイメージになっています。高齢化に伴いサークルの継続的活動が困難なことや、ここ何年かのコロナ禍の影響もあり、当館の昨年度の利用者数はコロナ禍前と

比べ半分になってしまいました。講座参加者の固定化という課題もあり、中心地の住民の皆さんにも当館で開催する講座の楽しさを知ってほしい、そして当館へも足を運んでもらいたいと思います、講座の一部を中心地の会場で開催しています。が、残念ながら運転が不安等の理由から当館が会場の場合は中心地からの参加は少なめです。

また、当館同様の講座を開催している団体と打ち合わせを行い、開催日や曜日が重複しないよう調整していますが、なかなか成果は出ていません。

立地条件という高いハードルはありますが、地区住民の皆さんが、「行ったら楽しい場所」「元気になる場所」というイメージを持ち、「ふらっと気軽に立ち寄れる身近な場所」になるよう、職員全員で協力していきたいと思えます。



県教委より

長野県及び長野県教育委員会からのお知らせ・お願い

新型コロナウイルス感染症対策が大きく変わろうとしている中、五月に「館長総会並びに研修会」「定例総会」が参集形式で開催される等、公民館活動を各地で取組んでいただいていることに、改めて感謝申し上げます。

さて、県生涯学習推進センターでは公民館関係者の皆様の意識の高揚とスキルアップを図るために研修を企画しております。

その①「公民館・社会教育講座」十月十三日と二月十八日に、講師は生涯学習推進センターの中田安子さん。

その②「社会教育士・社会教育委員等研修」八月七日に、講師は松本大学の向井健さん。十一月二十九日の講師は名古屋大学の松田武雄さん。

その③「令和時代の学校を核とした地域づくり研修」九月八日に、講師は地域・教育魅力化プラットフォームの岩本悠さんと信州大学の荒井英治郎さん。

その④「地域づくりの支え手元氣アップ講座」十月六日と十二月七日に開催します。

受講料は無料です。皆様のご参加心よりお待ちしております。

(文化財・生涯学習課 主任指導主事 篠原靖昌)

長野県公民館運営協議会 定例総会開催

五月十八日、松本市松南地区公民館において、令和五年度長野県公民館運営協議会定例総会が開催されました。

県内各郡市公民館運営協議会から代議員が出席し、令和五年度の活動基本方針、事業計画、収支予算等を審議、承認しました。また、新会長に松本市今井公民館の櫻井貞文館長が選出されました。本年度の役員は、左表のとおりです。

同日の午後には、資料刊行委員および長野県公運協だより編集委

員の委嘱が行われ、「社会教育実践集」「長野県公運協だより」の発刊に向けた第一回編集委員会が開催されました。

公運協だより

編集委員のつぶやき

朝日村公民館

主事 山口純平

公民館は何のためにあるのでしょうか。コロナ後の今だからこそ、存在意義やその機能、公民館主事の役割など、改めて丁寧に説明し、発信していく必要があると感じています。

令和5年度 長野県公民館運営協議会役員名簿

住 所	〒380-0928 長野市若里1-1-4 県立長野図書館内		
電 話 番 号	026-217-6256		
F A X 番 号	026-217-7015		
メールアドレス	kounkyo@mxl.avis.ne.jp		
ホームページ	https://naganoken-kounkyo.com/		
役 職 名	氏 名	所 属	
顧 問 長	山田 賢一	安曇野市堀金公民館長	
	櫻井 貞文	松本市今井公民館長	
副 会 長	市村 勝巳	小布施町公民館長	
	市川 正彦	立科町中央公民館長	
	内山 修治	麻績村公民館長	
	細江 孝明	伊那市伊那公民館長	
	高野 豊	長野市立朝陽公民館長	
	土屋 明美	小諸市公民館長	
理 事	小笠原鉄夫	松本市入山辺公民館長	
	佐々木祥二	飯田市公民館長	
	竹鼻 泰晴	千曲市上山田公民館長	
	中村 美子	上田市丸子公民館次長	
	渡邊 宏太	白馬村公民館主事	
	春日 亮太	伊那市西春近公民館主事	
	遠山 真也	飯綱町公民館主事	
	新井 存	長野市柳原交流センター係長	
	浅井 勇太	松本市島立公民館主任	
	三ツ井洋樹	飯田市公民館主事	
	監 事	藤松伸二郎	安曇野市三郷公民館長
		小松 祐基	東御市中央公民館主事
事 務 局	木下 陽介	事務局長	
	筒井美保子	アドバイザー	
	竹内美津江	事務局員	